



Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (Oracle App Server 10g Plug-In 2.0)



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-6497-10
2006年4月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、N1、Java、および J2EE は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System User's Guide for Oracle App Server 10g Plug-In 2.0

Part No. 819-6392-10

目次

はじめに	9
1 Oracle App Server 10g プラグインの概要	13
Oracle App Server 10g プラグインの目的	13
Oracle App Server 10g プラグインに含まれるもの	13
Oracle App Server 10g プラグインを使用するための要件	14
参照情報	15
2 Oracle App Server 10g プラグインのリリースノート	17
インストール上の問題	17
oraInventory ディレクトリに書き込みアクセス権がない場合 J2EE & Web キャッシュトポロジのインストールが失敗する (6245305)	17
実行時の問題	18
3 Oracle App Server 10g プラグインのインストールと構成	19
Oracle App Server 10g プラグイン の入手	19
Solaris への Oracle App Server 10g プラグイン の追加	20
▼ Solaris 用の Oracle App Server 10g プラグイン を追加する	20
Linux への Oracle App Server 10g プラグイン の追加	20
▼ Linux 用の Oracle App Server 10g プラグイン を追加する	20
Windows への Oracle App Server 10g プラグイン の追加	21
▼ Windows 用の Oracle App Server 10g プラグイン を追加する	21
N1 SPS 環境への Oracle App Server 10g プラグイン のインポート	21
アップグレード関連の注意事項	22
▼ 旧バージョンのコンポーネントにアクセスする	22
環境に応じたソリューションのカスタマイズ	22
▼ Oracle Application Server を構成する	23
マスターサーバータイムアウトの設定	24

リモートエージェントのユーザーおよびグループ	24
クラスタ機能用のリモートシェル	24
Oracle App Server 10g プラグインへのパッチの適用	24
4 Oracle App Server 10g プラグインの使用法	25
Oracle インフラストラクチャートポロジ	25
Oracle トポロジの配備	26
▼ J2EE and Web Cache トポロジを配備する	27
▼ J2EE and Web Cache with Identity Management トポロジを配備する	30
▼ Business Intelligence and Forms トポロジを配備する	31
▼ Portal and Wireless トポロジを配備する	33
トポロジの配備解除	36
▼ トポロジを配備解除する	36
トポロジのインポート	36
▼ トポロジをインポートする	36
トポロジの変更	37
▼ インポート済みトポロジにコンポーネントを追加する	37
▼ エンタープライズ関連のトポロジを開始する	38
アプリケーションサーバーインスタンスの管理	38
▼ アプリケーションサーバーインスタンスを起動する	39
▼ アプリケーションサーバーインスタンスを停止する	39
▼ OC4J インスタンスを作成する	40
▼ すべての OC4J インスタンスを表示する	41
▼ OC4J インスタンスを削除する	41
Oracle Application Server クラスタの管理	42
▼ クラスタを作成する	42
▼ J2EEInstaller コンポーネントを既存のクラスタに追加する	43
▼ J2EEInstaller コンポーネントをクラスタから削除する	44
▼ クラスタマスターを表示する	45
▼ クラスタメンバーを表示する	45
▼ クラスタを削除する	46
エンタープライズアプリケーションの使用法	46
▼ Enterprise Application (EAR) ファイルを取得する	46
▼ エンタープライズアプリケーションを配備する	47
Web アプリケーションの使用法	47
▼ Web Application (WAR) ファイルを取得する	48

データソースの作成と編集	48
▼ データソースを取得する	48
▼ データソースを変更する	49
コンポーネントタイプ	49
索引	51

表目次

表 4-1	セッション変数	27
表 4-2	グローバルデータベース名の変数	35

はじめに

このマニュアルでは、Sun™ N1™ Service Provisioning System (N1 SPS) ソフトウェアを使用して Oracle App Server 10g のアプリケーションとファイルを取得および配備する方法について説明します。

対象読者

このマニュアルの主な対象読者は、N1 SPS ソフトウェアに Oracle App Server 10g の機能を組み込む N1 SPS ソフトウェアのシステム管理者やオペレータなどです。これらのユーザーは次の知識を有するものと想定されています。

- N1 SPS 製品
- 標準的な UNIX® および Windows のコマンドとユーティリティー
- Oracle App Server 10g 製品の一般的な概念と管理機能

お読みになる前に

N1 SPS ソフトウェアの使用について十分な知識がない場合は、次のマニュアルをご覧ください。

- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 リリースノート』

マニュアルの構成

第 1 章では、プラグインソリューションの概念を説明します。

第 2 章では、このプラグインに関する既知の問題と最新ニュースを説明します。

第 3 章では、プラグインのインストールと構成方法について説明します。

第 4 章では、このプラグインを通してアプリケーションやファイルの取得と配備を行う方法を説明し、プラグインで特に提供されるコンポーネントタイプについて述べます。

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで参照している Sun 以外の URL は、追加の関連情報を提供します。

注- このマニュアル内で引用する Sun 以外の Web サイトの可用性については、Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよび トレーニング	http://jp.sun.com/support/ http://jp.sun.com/training/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

Oracle App Server 10g プラグインの概要

この章では、Sun N1 Service Provisioning System (N1 SPS) を使用した Oracle App Server 10g アプリケーションのプロビジョニングに関する一般的な情報を提供します。この章では、次の内容について説明します。

- 13 ページの「Oracle App Server 10g プラグインの目的」
- 13 ページの「Oracle App Server 10g プラグインに含まれるもの」
- 14 ページの「Oracle App Server 10g プラグインを使用するための要件」
- 15 ページの「参照情報」

Oracle App Server 10g プラグインの目的

N1 SPS ソフトウェアは、Oracle App Server 10g を即座にサポートするための高度な機能を備えています。ユーザーは、Oracle App Server 10g のインフラストラクチャーやアプリケーションをプロビジョニングするとともに、既存のインストールシステムをブラウズしてインストール済みのアプリケーションをエクスポートおよびインポートすることができます。Oracle App Server 10g サポートは、N1 SPS 環境に読み込まれる Java™ Archive (JAR) ファイルにパッケージ化されています。Oracle App Server 10g プラグインは、Oracle 10g アプリケーションサーバーと互換性のある Oracle アプリケーションを配備できます。

Oracle App Server 10g プラグインに含まれるもの

Oracle App Server 10g プラグインでは、主な機能として次のことができます。

- Oracle App Server のインフラストラクチャーと、OC4J インスタンスと呼ばれる、その Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™) コンテナをインストールする。
- Oracle アプリケーションを EAR (Enterprise Archive) および WAR (Web Archive) の形式で Oracle App Server の J2EE コンテナにインストールする。
- 次の Oracle トポロジをインストールする。
 - J2EE スタンドアロンアプリケーションサーバー。これには HTTP サーバー、J2EE、および Web Cache モジュールを含みます。

- エンタープライズ J2EE。Oracle Application Server コンポーネントを複数のコンピュータや層に分散したトポロジです。分散トポロジでは、性能や可用性を高めるために各層のコンピュータの数を増やすことができます。その場合でも、ほかの層のコンピュータに影響を及ぼすことはありません。
- エンタープライズビジネスインテリジェンス (BI)。J2EE アプリケーションをサポートするだけでなく、Business Intelligence および Forms 中間層のコンポーネントを使用するアプリケーションをもサポートするトポロジです。
- エンタープライズポータルおよびワイヤレス。J2EE アプリケーションをサポートするだけでなく、Portal および Wireless 中間層のコンポーネントを使用するアプリケーションをもサポートするトポロジです。
- 既存の Oracle App Server からクラスタを作成する。
- OC4J コンテナを作成する。
- OC4J コンテナをクラスタに追加する。
- OC4J コンテナを Oracle Application Server のクラスタ管理から削除する。
- OC4J コンテナを削除する。
- App Server を起動する。
- OC4J コンテナの App Server Management を停止する。
- ファイルシステム (既存の Oracle App Server にあるファイルシステムを含む) をブラウザして Oracle 10g アプリケーションを探し、それらのアプリケーションを N1 SPS マスターサーバー (MS) にエクスポートする。アプリケーションをエクスポートすると、一連の N1 SPS コンポーネントが作成されます。これによって、ユーザーは、そのアプリケーション用のアーカイブ設定を表示したり、オプションとして更新することができます。
- アプリケーションを Oracle App Server システムに配備する。

Oracle App Server 10g プラグインを使用するための要件

このプラグインは Oracle Application Server の準備を助けるためのものであるため、このサーバーのインスタンスを実行できるシステムが必要です。詳細は、『Oracle Application Server Quick Installation and Upgrade Guide 10g (9.0.4)』のセクション 2 の説明を参照してください。ほとんどの場合、システムの設定には次の条件があれば十分です。

ハードウェア	900 Mhz UltraSPARC III 以上。
オペレーティングシステム	Solaris™ 9 update 7 またはそれ以降のソフトウェア。
RAM	使用するアプリケーションサーバー構成の種類と数に依存。詳細については、『Oracle Application Server Performance Guide』を参照してください。
ディスク容量	oracle ユーザーのホームディレクトリとして 10G バイト以上のディスク容量。
スワップ領域	1G バイト以上のスワップ領域。

参照情報

プラグインを使用するためには、Oracle App Server 10g ソフトウェアの知識が必要です。この製品に関するそのほかの情報については、次の Oracle 情報を参照してください。

- [General information about Oracle Application Server](http://www.oracle.com/appserver/index.html)
(<http://www.oracle.com/appserver/index.html>)
- [Documentation for Oracle Application Server](http://www.oracle.com/technology/documentation/appserver10g.html)
(<http://www.oracle.com/technology/documentation/appserver10g.html>)

Oracle App Server 10g プラグインのリリースノート

この章では、Oracle App Server 10g プラグインの最新情報、および既知の問題について説明します。

- 17 ページの「インストール上の問題」
- 18 ページの「実行時の問題」

インストール上の問題

Oracle App Server 10g プラグインまたは特定のトポロジのインストールまたはアンインストール時には、次の問題が存在することが判明しています。

oraInventory ディレクトリに書き込みアクセス権がない場合 **J2EE & Web** キャッシュトポロジのインストールが失敗する (6245305)

説明: 以前のインストールから oraInst.loc が存在する場合、インベントリディレクトリが使用されます。以前のインストールとは異なるグループ ID を使用している場合、アクセス権の問題によりインストールが失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
You do not have sufficient permissions to access the inventory
'/export/home/oracle/oraInventory'. Installation cannot continue. Make sure
that you have read/write permissions to the inventory directory and restart
the installer.: Permission denied
```

回避策: oraInst.loc が指定するディレクトリでアクセス権を変更するか、以前のインストールと同じグループ ID を使用します。Oracle のインストールが存在しない場合は、oraInst.loc ファイルを削除できます。プラグインによってこの問題が解決されます。

実行時の問題

現時点では、判明している実行時の問題はありません。

Oracle App Server 10g プラグインのインストールと構成

この章では、Oracle App Server 10g プラグインをインストールして構成する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 19 ページの「Oracle App Server 10g プラグインの入手」
- 21 ページの「N1 SPS 環境への Oracle App Server 10g プラグインのインポート」
- 22 ページの「アップグレード関連の注意事項」
- 22 ページの「環境に応じたソリューションのカスタマイズ」
- 24 ページの「Oracle App Server 10g プラグインへのパッチの適用」

Oracle App Server 10g プラグインの入手

Oracle App Server 10g プラグインを入手する手順は2段階に分かれます。はじめに Oracle App Server 10g プラグイン JAR ファイルが含まれたパッケージファイルをシステムに追加する必要があります。そのあとに Oracle App Server 10g プラグイン JAR ファイルをインポートします。

Oracle App Server 10g ソリューションは、Sun N1 Service Provisioning System (N1 SPS) ソフトウェアに対するプラグインとしてパッケージ化されています。プラグインは Java™ アーカイブ (JAR) ファイルとしてパッケージ化されています。Oracle App Server 10g ソリューション用のプラグインファイルは、Sun N1 Service Provisioning System Supplement CD または Sun Download Center から入手できます。

パッケージファイルをシステムに追加すると、Oracle App Server 10g プラグインは2種類の JAR ファイルからインポートできます。状況に応じて、適切なファイルを選択してください。

Oracle App Server 10g プラグインは2種類の JAR ファイルからインポートできます。状況に応じて、適切なファイルを選択してください。

- Oracle App Server 10g プラグインをはじめてインポートする場合は、`com.sun.oracle10g_AS_2.0.jar` ファイルを使用します。
- 旧バージョンの Oracle App Server 10g プラグインがすでにインポートされている場合は、`com.sun.oracle10g_AS_1.0_2.0.jar` ファイルを使用します。

1. JAR ファイルを含むパッケージを追加します。
 - 20 ページの「Solaris への Oracle App Server 10g プラグインの追加」
 - 20 ページの「Linux への Oracle App Server 10g プラグインの追加」
 - 21 ページの「Windows への Oracle App Server 10g プラグインの追加」
2. JAR ファイルをインポートします。- 21 ページの「N1 SPS 環境への Oracle App Server 10g プラグインのインポート」

Solaris への Oracle App Server 10g プラグインの追加

Oracle App Server 10g プラグインは、SUNWspsoas パッケージに含まれています。

▼ Solaris 用の Oracle App Server 10g プラグインを追加する

- 1 端末ウィンドウで、スーパーユーザーになります。
- 2 プラグインパッケージを含むディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# pkgadd -d . SUNWspsoas
```

スタンドアロン用 JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/com.sun.oracle10g_AS/ ディレクトリにあります。アップグレード用 JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/com.sun.oracle10g_AS/Upgrade ディレクトリにあります。

Linux への Oracle App Server 10g プラグインの追加

Oracle App Server 10g プラグインは、sun-spssoas-2.0-1.noarch.rpm ファイルに含まれています。

▼ Linux 用の Oracle App Server 10g プラグインを追加する

- 1 端末ウィンドウで、スーパーユーザーになります。
- 2 sun-spssoas-2.0-1.noarch.rpm ファイルを含むディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# rpm -i sun-spssoas-2.0-1.noarch.rpm
```

スタンドアロン用 JAR ファイルは /opt/sun/N1_Service_Provisioning_System/plugins/com.sun.oracle10g_AS/ ディレクトリ

にあります。アップグレード用 JAR ファイルは
/opt/sun/N1_Service_Provisioning_System/plugins/com.sun.oracle10g_AS/Upgrade ディレクトリにあります。

Windows への Oracle App Server 10g プラグインの追加

Oracle App Server 10g プラグインは、sun-spsaos-2.0.msi ファイルに含まれています。

▼ Windows 用の Oracle App Server 10g プラグインを追加する

- 1 sun-spsaos-2.0.msi ファイルを含むディレクトリに移動します。
- 2 sun-spsaos-2.0.msi ファイルをダブルクリックします。
インストーラの GUI が起動されます。JAR ファイルは、C:\Program Files\N1 Service Provisioning System\plugins\com.sun.oracle10g_AS ディレクトリにコピーされます。

N1 SPS 環境への Oracle App Server 10g プラグインのインポート

ある特定のプラグインを N1 SPS 製品に認識させるには、そのプラグインをインポートする必要があります。プラグインをインポートするには、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で詳しく説明されている手順に従います。

1. N1 SPS ブラウザインタフェースのメインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。
2. 「Plug-ins」ページの「Action」列で、「Import」をクリックします。
3. JAR ファイルをダウンロードした場所に移動します。
4. 「Continue to Import」ボタンをクリックします。

インポートが正常に終了すると、プラグインの詳細ページが開いて、そのプラグインが提供するオブジェクトが表示されます。

コマンド行からプラグインアーカイブファイルをインポートすることもできます。

- これまで OS プロビジョニングプラグインを使用していない場合は、次のコマンドを使用してプラグインをインポートします。

```
% cr-cli -cmd plg.p.add -path com.sun.oracle10g_AS_2.0.jar -u username -p password
```

- 旧バージョンの OS プロビジョニングプラグインがすでに存在する場合は、次のコマンドを使用してプラグインをインポートします。

```
% cr-cli -cmd plg.p.add -path com.sun.oracle10g_AS_1.0_2.0.jar -u username -p password
```

アップグレード関連の注意事項

▼ 旧バージョンのコンポーネントにアクセスする

新しいバージョンのプラグインにアップグレードすると、そのプラグインの「Common Tasks」ページが更新され、新しいバージョンのプラグインを使用してインストールされたコンポーネントへのリンクが表示されます。この機能により、最新の機能と改善点を含むコンポーネントを簡単に表示できます。古い機能に依存するコンポーネントは「Common Tasks」ページからはリンクされません。

以前にインストールしたコンポーネントが見つからない場合、そのコンポーネントは旧バージョンのプラグインから作成された可能性があります。旧バージョンのコンポーネントを表示または使用するには、次の手順に従います。

- 1 「**Common Tasks**」ページで、適切なコンポーネントプロシージャをクリックします。「**Component Details**」ページが表示されます。
- 2 「**Component Details**」ページで、「**Version History**」をクリックします。コンポーネントとバージョンのリストが表示されます。
- 3 適切なリンクをクリックします。
 - コンポーネントの機能を実行するには、そのバージョン番号をクリックするか、使用するコンポーネントに適用される「**Details**」リンクをクリックします。
 - コンポーネントがインストールされている場所を知るには、「**Where Installed**」をクリックします。

環境に応じたソリューションのカスタマイズ

このプラグインをインストールし、実行する前に、Oracle Application Server と Sun N1 Service Provisioning System マスターサーバーを変更する必要があります。

▼ Oracle Application Server を構成する

- 1 /etc/system ファイルを変更します。
/etc/system ファイルに次の行を追加し、再起動します。

```
* included for Oracle
set semsys:seminfo_semmap=80
set semsys:seminfo_semmni=2200
set semsys:seminfo_semmns=2200
set semsys:seminfo_semmnu=2000
set semsys:seminfo_semmsl=256
set semsys:seminfo_semopm=210
set semsys:seminfo_semume=600
set shmsys:shminfo_shmmax=4294967295
set shmsys:shminfo_shmmni=100
set shmsys:shminfo_shmmni=100
set shmsys:shminfo_shmseg=100
```
- 2 /etc/group ファイルに **Oracle** データベースグループを追加します。
Oracle Application Server 製品をインストールするシステムで/etc/group ファイルを編集し、次の行を追加します。

```
dba::120:
```
- 3 /etc/passwd ファイルに **Oracle** ユーザーを追加します。
Oracle Application Server 製品をインストールするシステムで/etc/passwd ファイルを編集し、次の行を追加します。

```
oracle:x:500:120::/export/home/oracle:/bin/csh
```
- 4 /etc/shadow ファイルを同期化します。
次のコマンドを実行します。pwconv
- 5 **Oracle** ユーザーアカウントをアクティブにします。
passwd oracle コマンドを使用し、Oracle ユーザーのパスワードを指定します。
- 6 システムが **NIS** 内にあり、**Oracle** アカウントまたは dba グループが **NIS** マップにすでに存在する場合は、/etc/nsswitch.conf ファイルの構成を確認します。
/etc/nsswitch.conf ファイルの passwd エントリで files が nis より前にあることを確認します。

注-Oracle と dba の定義はすべてのシステムで同じでなければなりません。

マスターサーバータイムアウトの設定

このプラグインで提供されるプランの中には、実行にかなりの時間がかかるものがあります。したがって、マスターサーバーに対するタイムアウト値がプランの実行に十分であるか確認する必要があります。

マスターサーバーでプロビジョニングシステムの `config.properties` ファイルを編集します。デフォルトでは、このファイルは `/opt/SUNWn1sps/N1_Service_Provisioning_System_5.2/server/config/config.properties` ディレクトリにあります。次のタイムアウト値を設定します。

```
pe.nonPlanExecNativeTimeout=1800  
pe.defaultPlanTimeout=18000  
userdb.sessionTimeout=10800000
```

注-タイムアウトの変更を有効にするためには、マスターサーバーの再起動が必要です。

リモートエージェントのユーザーおよびグループ

リモートエージェントをインストールする場合には、このインストールを所有するユーザーとグループとして `root` を設定してください。また、`setuid` 機能を許可するかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、`yes` を選択します。

クラスタ機能用のリモートシェル

Oracle 環境でクラスタ機能を使用するためには、クラスタに属する各システムが、リモートからリモートシェルを通して (`rsh` コマンド) 相互に通信できなければなりません。リモート機能を有効にする場合は、`oracle` アカウントのホームディレクトリに `rhosts` ファイルを作成し、そこに `+ oracle` という行を追加します。

Oracle App Server 10g プラグインへのパッチの適用

Oracle App Server 10g プラグインに適用可能なパッチは、[SunSolve](http://sunsolve.sun.com) (<http://sunsolve.sun.com>) サイトを確認します。パッチを適用するには、パッチの README ファイルの手順に従います。

Oracle App Server 10g プラグインの使用法

Oracle App Server 10g プラグインは、特定のコンポーネントタイプをいくつも備えています。このプラグインでは、Oracle App Server 10g アプリケーションの使用に必要な機能を簡単に使用できます。この章では、次の内容について説明します。

- 25 ページの「Oracle インフラストラクチャートポロジ」
- 38 ページの「アプリケーションサーバーインスタンスの管理」
- 42 ページの「Oracle Application Server クラスターの管理」
- 46 ページの「エンタープライズアプリケーションの使用法」
- 47 ページの「Web アプリケーションの使用法」
- 48 ページの「データソースの作成と編集」
- 49 ページの「コンポーネントタイプ」

注 - installPath 変数の値は、/opt や c:\mydir などの絶対パスを指定しないかぎり、デフォルトのリモートエージェントディレクトリの相対パスとして扱われます。たとえば、Windows リモートエージェントで installPath 変数を c:\mydir に設定し、デフォルトのリモートエージェントディレクトリ c:\Program Files\N1 Service Provisioning System\agent でエージェントにファイルを配備すると、ファイルは c:\Program Files\N1 Service Provisioning System\agent\c\mydir に配備されます。

Oracle インフラストラクチャートポロジ

Oracle インフラストラクチャートポロジとは特定の Oracle 実装を意味します。各トポロジは、Metadata Repository (MR)、Oracle Internet Directory (OID)、および Single Sign-On (SSO) モジュールなどのサービスをインストールする 1 つ以上のインストールモジュールから構成されています。

Oracle App Server 10g プラグインには、次の Oracle インストールモジュールが含まれています。個々のモジュールは、N1 SPS 内の 1 つのコンポーネントとして提供されます。

- MRInstaller - MRInstaller モジュールには、メタデータリポジトリとして使用されるデータベースが含まれています。このモジュールは OID もインストールします。ほかのほとんどのモジュールは MRInstaller モジュールに依存しています。

- IDInstaller – IDInstaller モジュールはセキュリティーモジュールです。このモジュールには、シングルサインオンと委譲された管理サービス用の HTTP サーバー、およびシングルサインオンと委譲された管理サービス用の OC4J (Oracle Application Server Containers for J2EE) が含まれています。このモジュールは MRInstaller モジュールに依存しています。
- J2EESOInstaller – J2EESOInstaller モジュールには、HTTP サーバー、OC4J モジュール、および Web キャッシュが含まれています。このモジュールは MRInstaller モジュールに依存しています。
- J2EESONWCInstaller – J2EESONWCInstaller モジュールには、HTTP サーバー、および (Web キャッシュを除く) J2EE が含まれています。このモジュールは MRInstaller モジュールに依存しています。
- BIInstaller – BIInstaller モジュールには、フォームやパーソナライゼーションなどのビジネスコンポーネントが含まれています。このモジュールは MRInstaller モジュールに依存しています。
- PWInstaller – PWInstaller モジュールには、BIInstaller モジュールのサブセットが含まれています。このモジュールは、ポータルとワイヤレスをインストールします。このモジュールは MRInstaller モジュールに依存しています。
- J2EEInstaller – J2EEInstaller モジュールは、OC4J と Web キャッシュを含むスタンドアロン J2EE コンポーネントです。このコンポーネントは、クラスタの作成に使用できる唯一のコンポーネントです。さらに、このモジュールは、MRInstaller モジュールに依存しない唯一のモジュールです。

Oracle トポロジの配備

Oracle App Server 10g トポロジを配備するには、1つ以上のシステムにソフトウェアをインストールします。Oracle Application Server のサイレントインストーラは、一度に1つのシステムにのみソフトウェアをインストールできます。そのため、複数のシステムが含まれる複雑なトポロジをインストールするには、一度に1台のマシンごとに、連続して Oracle モジュールをインストールします。

セッション変数の設定

Oracle トポロジを配備する前にいくつかのセッション変数を作成する必要があります。表 4-1 の第3列に従って、パスワードフラグを設定していることを確認します。パスワードは最低5文字で、英数字を使用する必要があります。また、パスワードはハイフン (-) を含むことができません。

MRInstaller コンポーネントをインストールしようとするホストの名前にハイフンが含まれている場合、変数 `globalDBName` を再定義してハイフンを削除する必要があります。Internet Directory に登録されるすべての名前は、ハイフンを含むことができません。そのため、変数の定義ではハイフンの使用を避けてください。詳細については、Oracle のマニュアルを参照してください。

セッション変数を定義するには、ブラウザインタフェース上部の「Session Variables」をクリックします。

表 4-1 セッション変数

変数名	説明	パスワードのフラグ
sysPass	メタデータリポジトリデータベースの sys ユーザー用パスワード	可
systemPass	メタデータリポジトリデータベースの system ユーザー用パスワード	可
sourceImage	インストールソースの Disk1 へのフルパス (すべてのリモートエージェントから使用可能なもの)	不可
MRInstallerPWD	MR モジュール用のパスワード	可
IDinstallerPWD	ID モジュール用のパスワード	可
J2EEInstallerPWD	J2EE モジュール用のパスワード	
J2EESSOInstallerPWD	J2EESSO モジュール用のパスワード	可
J2EESONWCInstallerPWD	J2EESONWC モジュール用のパスワード	可
BIInstallerPWD	BI モジュール用のパスワード	可
PWInstallerPWD	PW モジュール用のパスワード	可
OIDhost	Oracle Internet Directory が置かれるシステムのホスト名	不可
OIDDdomain	Oracle Internet Directory が置かれるシステムのドメイン	不可

▼ J2EE and Web Cache トポロジを配備する

この作業の終了時には、各ターゲットホストは次のコンポーネントを持つようになります。

- J2EEInstaller コンポーネント
- J2EEInstaller コンポーネントに関連付けられた J2EEHT 仮想ホスト
- J2EEHT 仮想ホスト内にインストールされた Oc4jHolder コンポーネント
- Oc4jHolder コンポーネントに関連付けられた Oc4jHolderHT 仮想ホスト
- Oc4jHolderHT 仮想ホスト内にインストールされた Oc4jInstance コンポーネント
- Oc4jInstance コンポーネントに関連付けられた Oc4jInstanceHT 仮想ホスト

- 1 セッション変数を作成します。
このトポロジで作成する必要があるのは、sourceImage セッション変数と J2EEInstallerPWD セッション変数だけです。
- 2 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで「Oracle App Server 10g」を選択します。
- 3 「Oracle App Server 10g Common Tasks」ページの「J2EE & Web Cache Topology」セクションで「Install」をクリックします。
- 4 「Plans Details」ページで「Run」をクリックします。
- 5 J2EEInstaller コンポーネントに使用する変数を選択します。
 - 既存の変数セットを使用する場合は、「Plan Parameters」テーブルの J2EEInstaller コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「Plan Parameters」テーブルの J2EEInstaller コンポーネント行にある「Select from List」をクリックします。
 - a. 「Create Set」をクリックします。
 - b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. ORACLE_HOME_NAME 用のデフォルト値が使用されるコンポーネントがこのホスト上にすでに存在する場合は、変数 ORACLE_HOME_NAME の値を定義します。

注- 同じ物理ホストにインストールされている2つのコンポーネントが同じ ORACLE_HOME_NAME を持つことはできません。

 - d. 変数セットを保存します。
 - e. 「Plan Parameters」テーブルの J2EEInstaller コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。
- 6 デフォルト以外のホルダー名を使用する場合は、Oc4jHolder コンポーネントに使用する変数を選択します。
 - 既存の変数セットを使用する場合は、「Plan Parameters」テーブルの Oc4jHolder コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「Plan Parameters」テーブルの Oc4jHolder コンポーネント行にある「Select from List」をクリックします。
 - a. 「Create Set」をクリックします。

- b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. 「Holder Name」を変更します。
 - d. 変数セットを保存します。
 - e. 「Plan Parameters」テーブルの **Oc4jHolder** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。
- 7 デフォルト以外のインスタンス名を使用する場合は、Oc4jHolder コンポーネントに使用する変数を選択します。
 - 既存の変数セットを使用する場合は、「Plan Parameters」テーブルのOc4jInstance コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「Plan Parameters」テーブルのOc4jInstance コンポーネント行にある「Select from List」をクリックします。
 - a. 「Create Set」をクリックします。
 - b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. 「Instance Name」を変更します。
 - d. 変数セットを保存します。
 - e. 「Plan Parameters」テーブルのOc4jInstance コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。
- 8 ターゲットホストを選択する場合は、「Select from List」をクリックしてターゲットホストを選択します。

このコンポーネントをいくつかのシステムに同時にインストールする場合は、リストから複数のターゲットホストを選択します。
- 9 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。

ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。チェックが入っていると、プランはこのホストセットに加えて、前の手順で選択したホストにインストールしようとします。
- 10 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

このプランの正常終了時には、すべてのインスタンスが動作しています。

▼ J2EE and Web Cache with Identity Management トポロジを配備する

この作業の終了時には、各ターゲットホストは次のコンポーネントを持つようになります。

- プラン用に選択したターゲットホスト上の MRInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の IDInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の J2EESONWCInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の J2EESOInstaller コンポーネント
- J2EESOInstaller コンポーネントに関連付けられた J2EEHT 仮想ホスト
- J2EEHT 仮想ホスト内にインストールされた Oc4jHolder コンポーネント
- Oc4jHolder コンポーネントに関連付けられた Oc4jHolderHT 仮想ホスト
- Oc4jHolderHT 仮想ホスト内にインストールされた Oc4jInstance コンポーネント
- Oc4jInstance コンポーネントに関連付けられた Oc4jInstanceHT 仮想ホスト

1 セッション変数を作成します。

2 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。

3 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**J2EE & Web Cache with Identify Management Topology**」セクションで「**Install**」をクリックします。

4 「**Run**」をクリックします。

5 このプランで **MRInstaller** コンポーネントに使用する変数を選択します。

- 既存の変数セットを使用する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **MRInstaller** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
- 新しい変数セットを作成する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **MRInstaller** コンポーネント行にある「**Select from List**」をクリックします。

a. 「**Create Set**」をクリックします。

b. 変数セットの名前を入力します。

c. ORACLE_HOME_NAME 用のデフォルト値が使用されるコンポーネントがこのホスト上にすでに存在する場合は、変数 ORACLE_HOME_NAME の値を定義します。

注 - 同じ物理ホストにインストールされている2つのコンポーネントが同じ ORACLE_HOME_NAME を持つことはできません。

d. 変数 szIdentityAdminContext の値を定義します。

e. 変数セットを保存します。

f. 「Plan Parameters」テーブルの MRInstaller コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。

- 6 必要であれば、手順 5 を繰り返して、IDInstaller、J2EESOIInstaller、および J2EESONWCInstaller コンポーネントの ORACLE_HOME_NAME を定義し直します。
- 7 デフォルト以外のホルダー名を使用する場合は、Oc4jHolder コンポーネントに使用する変数を選択します。
- 8 デフォルト以外のインスタンス名を使用する場合は、Oc4jInstance コンポーネントに使用する変数を選択します。
- 9 ターゲットホストを選択する場合は、「Select from List」をクリックしてターゲットホストを選択します。
MRInstaller コンポーネントをインストールするホストを 1 つ選択します。
- 10 IDInstaller、J2EESOIInstaller、および J2EESONWCInstaller コンポーネントをインストールするホストの名前を入力します。
各コンポーネントは 1 つのホストにインストールします。

注-各コンポーネントを別々のホストに置いてください。

- 11 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れないでください。
チェックが入っていると、プランはこのホストセットに加えて、前の手順で選択したホストにインストールしようとしています。
- 12 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。
このプランの正常終了時には、すべてのインスタンスが動作しています。

▼ Business Intelligence and Forms トポロジを配備する

この作業の終了時には、各ターゲットホストは次のコンポーネントを持つようになります。

- プラン用に選択したターゲットホスト上の MRInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の IDInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の J2EESONWCInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の J2EESOIInstaller コンポーネント
- J2EESOIInstaller コンポーネントに関連付けられた J2EEHT 仮想ホスト
- J2EEHT 仮想ホスト内にインストールされた Oc4jHolder コンポーネント
- Oc4jHolder コンポーネントに関連付けられた Oc4jHolderHT 仮想ホスト
- Oc4jHolderHT 仮想ホスト内にインストールされた Oc4jInstance コンポーネント
- Oc4jInstance コンポーネントに関連付けられた Oc4jInstanceHT 仮想ホスト
- 指定したホスト上の BIInstaller コンポーネント

- 1 セッション変数を作成します。
 - 2 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
 - 3 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Business Intelligence and Forms Topology**」セクションで「**Install**」をクリックします。
 - 4 「**Run**」をクリックします。
 - 5 このプランで **MRInstaller** コンポーネントに使用する変数を選択します。
 - 既存の変数セットを使用する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **MRInstaller** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **MRInstaller** コンポーネント行にある「**Select from List**」をクリックします。
 - a. 「**Create Set**」をクリックします。
 - b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. **ORACLE_HOME_NAME** 用のデフォルト値が使用されるコンポーネントがこのホスト上にすでに存在する場合は、変数 **ORACLE_HOME_NAME** の値を定義します。
-
- 注- 同じ物理ホストにインストールされている2つのコンポーネントが同じ **ORACLE_HOME_NAME** を持つことはできません。
-
- d. 変数 **szIdentityAdminContext** の値を定義します。
 - e. 変数セットを保存します。
 - f. 「**Plan Parameters**」テーブルの **MRInstaller** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。
 - 6 必要であれば、手順5を繰り返して、**IDInstaller**、**J2EESOIInstaller**、**J2EESONWCInstaller**、および **BIInstaller** コンポーネントの **ORACLE_HOME_NAME** を定義し直します。
 - 7 デフォルト以外のホルダー名を使用する場合は、**Oc4jHolder** コンポーネントに使用する変数を選択します。
 - 8 デフォルト以外のインスタンス名を使用する場合は、**Oc4jInstance** コンポーネントに使用する変数を選択します。

- 9 ターゲットホストを選択する場合は、「**Select from List**」をクリックしてターゲットホストを選択します。
MRIInstaller コンポーネントをインストールするホストを1つ選択します。
- 10 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。
チェックが入っていると、プランはこのホストセットに加えて、前の手順で選択したホストにインストールしようとしています。
- 11 このページの「**Plan Variables**」セクションで、**IDInstaller**、**J2EESONWCInstaller**、**J2EESONInstaller**、および**BIInstaller** コンポーネントをインストールするホストの名前を入力します。
各コンポーネントは1つのホストだけにインストールします。

注-各コンポーネントを別々のホストに置いてください。

- 12 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
このプランの正常終了時には、すべてのインスタンスが動作しています。

▼ **Portal and Wireless** トポロジを配備する

この作業の終了時には、各ターゲットホストは次のコンポーネントを持つようになります。

- プラン用に選択したターゲットホスト上の MRIInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の IDInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の J2EESONWCInstaller コンポーネント
- 指定したホスト上の J2EESONInstaller コンポーネント
- J2EESONInstaller コンポーネントに関連付けられた J2EEHT 仮想ホスト
- J2EEHT 仮想ホスト内にインストールされた Oc4jHolder コンポーネント
- Oc4jHolder コンポーネントに関連付けられた Oc4jHolderHT 仮想ホスト
- Oc4jHolderHT 仮想ホスト内にインストールされた Oc4jInstance コンポーネント
- Oc4jInstance コンポーネントに関連付けられた Oc4jInstanceHT 仮想ホスト
- 指定したホスト上の PWInstaller コンポーネント

- 1 セッション変数を作成します。
- 2 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 3 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Portal and Wireless Topology**」セクションで「**Install**」をクリックします。
- 4 「**Run**」をクリックします。

- 5 このプランで **MRInstaller** コンポーネントに使用する変数を選択します。
- 既存の変数セットを使用する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **MRInstaller** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **MRInstaller** コンポーネント行にある「**Select from List**」をクリックします。
 - a. 「**Create Set**」をクリックします。
 - b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. ORACLE_HOME_NAME 用のデフォルト値が使用されるコンポーネントがこのホスト上にすでに存在する場合は、変数 ORACLE_HOME_NAME の値を定義します。

注- 同じ物理ホストにインストールされている2つのコンポーネントが同じ ORACLE_HOME_NAME を持つことはできません。

- d. 変数 `szIdentityAdminContext` の値を定義します。
 - e. 変数セットを保存します。
 - f. 「**Plan Parameters**」テーブルの **MRInstaller** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。
- 6 必要であれば、手順5を繰り返して、**IDInstaller**、**J2EESSOInstaller**、**J2EESONWCInstaller**、**BIInstaller**、および **PWInstaller** コンポーネントの ORACLE_HOME_NAME を定義し直します。
- 7 デフォルト以外のホルダー名を使用する場合は、**Oc4jHolder** コンポーネントに使用する変数を選択します。
- 8 デフォルト以外のインスタンス名を使用する場合は、**Oc4jInstance** コンポーネントに使用する変数を選択します。
- 9 ターゲットホストを選択する場合は、「**Select from List**」をクリックしてターゲットホストを選択します。
MRInstaller コンポーネントをインストールするホストを1つ選択します。
- 10 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。チェックが入っていると、プランはこのホストセットに加えて、前の手順で選択したホストにインストールしようとしています。

- 11 このページの「Plan Variables」セクションで、IDInstaller、J2EESSOInstaller、およびPWInstaller コンポーネントをインストールするホストの名前を入力します。
各コンポーネントは1つのホストだけにインストールします。

注-各コンポーネントを別々のホストに置いてください。

- 12 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。
このプランの正常終了時には、すべてのインスタンスが動作しています。

グローバルデータベース名の変更

デフォルトでは、MRInstaller のグローバルデータベース名にはホスト名が使用されません。ホスト名にハイフンが含まれている場合、そのハイフンをグローバルデータベース名から削除する必要があります。この変更は、一部のコンポーネントの一部の変数に影響します。

表 4-2 グローバルデータベース名の変数

コンポーネント	変数	デフォルト	変更例
MRInstaller	gLocalDBName	:[dbSid]::[dbHost]	:[dbSid].SP
J2EESSOInstaller	szl_ClusterRepository	{":[OIDFQN]:1521::[SID]::[OIDFQN]::[SID]::[OIDFQN]}", [OIDFQN] は :[OIDhost]::[OIDdomain] から導 き出されます。	{":[OIDFQN]:1521::[SID].SP::[SID].SP"}"
J2EESONWCInstaller	szl_ClusterRepository	{":[OIDFQN]:1521::[SID]::[OIDFQN]::[SID]::[OIDFQN]}"	{":[OIDFQN]:1521::[SID].SP::[SID].SP"}"
BIInstaller	szl_RepositoryUserInput	{":[OIDFQN]:1521::[SID]::[OIDFQN]::[SID]::[OIDFQN]}"	{":[OIDFQN]:1521::[SID].SP::[SID].SP"}"
PWInstaller	szl_RepositoryUserInput	{":[OIDFQN]:1521::[SID]::[OIDFQN]::[SID]::[OIDFQN]}"	{":[OIDFQN]:1521::[SID].SP::[SID].SP"}"

Oracle App Server トポロジでの SSL の使用法

デフォルトでは、セキュリティ保護された通信に SSL を使用する唯一のトポロジは識別子管理機能 (IDInstaller コンポーネント) だけです。SSL を使用するために J2EESSOInstaller、J2EESONWCInstaller、BIInstaller、または PWInstaller コンポーネントを有効にするには、szOIDwithSSLStatus 変数を Y に変更します。この変数を変更する場合、OIDport 変数の値も :[InternetDirectorySSLPort] に変更する必要があります。

次のリストに、この 2 つの変数の関係を示します。

```
szOIDwithSSLStatus="Y"    OIDport=":[InternetDirectorySSLPort]"
```

```
szOIDwithSSLStatus="N"    OIDport=":[InternetDirectoryPort]"
```

トポロジの配備解除

トポロジを配備解除するには、該当するトポロジをアンインストールします。

▼ トポロジを配備解除する

- 1 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g common tasks**」ページの該当する「**Infrastructure Tasks Topology**」セクションで「**Uninstall**」をクリックします。
「**Components Details**」ページに、このトポロジが表示されます。
- 3 「**Components Details**」ページで、「**default: uninstall**」の隣にある「**Run action**」をクリックします。
- 4 「**Plans Details Run**」ページで、トポロジを配備解除するホストを選択します。
- 5 「**Run Selected Installations**」をクリックします。
「**Plans Details Run**」ページに、該当するホストの情報が表示されます。
- 6 表示されたトポロジをアンインストールする場合は、「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
トポロジがアンインストールされると、そのトポロジに含まれるコンポーネントもすべてアンインストールされます。

トポロジのインポート

ユーザーのデータセンターから Oracle トポロジをプロビジョニングシステムにインポートすることもできます。

▼ トポロジをインポートする

この作業の正常終了時には、N1 SPS のコンポーネントは該当するトポロジを表示しません。

- 1 インポートするトポロジを特定します。

- 2 インストールするトポロジに対する適切な配備手順に従います。
詳細は、26 ページの「Oracle トポロジの配備」を参照してください。
- 3 それらのコンポーネントに対する変数セットを作成し、変数を定義します。変数はインストール済みのものと一致していなければなりません。
- 4 「Full Install」の値を FALSE に設定します。
ほとんどのインフラストラクチャプランはフルインストールとアンインストールのオプションを提供しています。この変数を FALSE に設定すると、N1 SPS ソフトウェアは、Oracle 部分を実行せずに、そのプランをプロビジョニングソフトウェアレベルで実行します。その後、「Create and Join」を使ってクラスタをインポートし、「Create OC4J」を実行して OC4J インスタンスをインポートすることができます。
- 5 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

トポロジの変更

インストール済みのトポロジの1つにコンポーネントを追加することによって、トポロジを変更できます。たとえば、複数の J2EESSOInstaller コンポーネントを J2EE & Web Cache トポロジにインストールしたり、BIInstaller コンポーネントを J2EE & Web Cache with Identity Management トポロジに追加したりできます。

▼ インポート済みトポロジにコンポーネントを追加する

この作業の終了時には、選択したコンポーネントが選択したホストにインストールされます。選択したコンポーネントは、MRInstaller コンポーネントに関連付けられます。選択したコンポーネントに関連付けられた MRInstaller コンポーネントをアンインストールすると、この新しいコンポーネントは自動的にアンインストールされます。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Application Deployment」セクションで「Components」をクリックします。
- 2 必要な場合は「Change Folder」を選択し、/com/sun/oracle10g_AS に移動します。
- 3 「Components」ページで、トポロジに追加するコンポーネントを選択します。
- 4 コンポーネントプロシージャに従ってデフォルトのインストールを実行します。
- 5 コンポーネントをインストールする物理ホストを選択します。
- 6 MRInstaller コンポーネントを持つ物理ホストの名前を指定します。
- 7 MRInstaller コンポーネントを持っているホストの ORACLE_HOME_NAME に値を指定します。

- 8 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

▼ エンタープライズ関連のトポロジを開始する

システムが突然停止したり、ほかのイベントで J2EE & Web Cache トポロジまたは J2EE & Web Cache with Identity Management トポロジが停止したりした場合、これらのトポロジはプラグインで起動できます。

J2EE & Web Cache トポロジまたは J2EE & Web Cache with Identity Management トポロジを起動すると、一番上のレベルのコンポーネントは、従属する下位コンポーネントの状態をチェックします。下位コンポーネントが起動されていない場合、起動コントロールが下位コンポーネントを起動します。

注 - Business Intelligence and Forms トポロジと Portal and Wireless トポロジの場合、個々のコンポーネントを別々に起動する必要があります。特に、BIInstaller または PWInstaller コンポーネントに加えて、特定の J2EES0Installer および J2EES0NWCInstaller コンポーネントを起動する必要があります。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Application Deployment」セクションで「Components」をクリックします。
- 2 必要な場合は「Change Folder」を選択し、/com/sun/oracle10g_AS に移動します。
- 3 「Components」ページで、起動する J2EES0Installer または J2EES0NWCInstaller コンポーネントをクリックします。
- 4 コンポーネントプロシージャに従って **Start** コントロールを実行します。
- 5 コンポーネントを起動する物理ホストを選択します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

アプリケーションサーバーインスタンスの管理

このセクションでは、アプリケーションサーバーインスタンス用のサービスについて説明します。

▼ アプリケーションサーバーインスタンスを起動する

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Application Server Instance Management**」セクションで「**Start**」をクリックします。
- 3 「**Plans Details**」ページで「**Run**」をクリックします。
- 4 起動するアプリケーションサーバーインスタンスと関連付けられている仮想ターゲットホストを選択します。

ヒント-いくつかのアプリケーションサーバーを同時に起動する場合は、複数のホストを選択します。

- 5 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。チェックが入っていると、プランはホストセットに加えて、以前の手順で選択したホストにあるすべてのアプリケーションサーバーインスタンスを起動しようとします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
プランの実行の終了時には、すべてのアプリケーションサーバーが動作しています。

▼ アプリケーションサーバーインスタンスを停止する

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Application Server Instance Management**」セクションで「**Stop**」をクリックします。
- 3 「**Plans Details**」ページで「**Run**」をクリックします。
- 4 停止するアプリケーションサーバーインスタンスと関連付けられている仮想ターゲットホストを選択します。

ヒント-いくつかのアプリケーションサーバーを同時に停止する場合は、複数のホストを選択します。

- 5 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。チェックが入っていると、プランはホストセットに加えて、以前の手順で選択したホストにあるすべてのアプリケーションサーバーインスタンスを停止しようとします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
プランの実行の終了時には、すべてのアプリケーションサーバーが停止しています。

▼ OC4J インスタンスを作成する

OC4J (Oracle Application Server Containers for J2EE) インスタンスは J2EE アプリケーションをサポートします。この作業の終了時には、OC4J インスタンスがアプリケーションサーバーに作成されています。

- 1 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Application Server Instance Management**」セクションで「**Create OC4J**」をクリックします。
- 3 「**Plans Details**」ページで「**Run**」をクリックします。
- 4 新しい変数セットを作成する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **Oc4jInstance** コンポーネント行セクションにある「**Select from List**」をクリックします。
- 5 「**Create Set**」をクリックします。
- 6 この変数セットの名前を入力します。
- 7 変数 `instanceName` の値を定義します。

注-同じアプリケーションサーバーに作成する2つのOC4Jインスタンスに同じ名前を付けることはできません。アプリケーションサーバーに常に存在するOC4Jインスタンスにはデフォルト値(ホーム)が使用されます。したがって、変数の値は常に再定義する必要があります。

- 8 この変数セットを保存し、選択します。それによって、プランの実行でこの変数セットが常に使用されます。

- 9 **OC4JInstance** コンポーネントを作成する **Oc4jHolderHT** 仮想ターゲットホストを選択します。

ヒント-いくつかのホストにインスタンスを同時に作成する場合は、複数のホストを選択します。

- 10 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。チェックが入っていると、プランはこのホストセットに加えて、前の手順で選択したホストにインストールしようとしています。
- 11 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
プランの実行の終了時には、ターゲットの個々の **Oc4jHolderHT** 仮想ホストに、先ほど定義した名前の **OC4JInstance** コンポーネントが追加でインストールされています。

▼ すべての **OC4J** インスタンスを表示する

- 1 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Application Server Instance Management**」セクションで「**View All OC4Js**」をクリックします。
インストール済みのすべてのインスタンスが表示されます。

▼ **OC4J** インスタンスを削除する

- 1 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Application Deployment**」セクションで「**Components**」をクリックします。
- 2 必要な場合は「**Change Folder**」を選択し、`/com/sun/oracle10g_AS`に移動します。
- 3 **Oc4jInstance** をクリックします。
- 4 コンポーネントプロシージャに従ってデフォルトのアンインストールを実行します。
- 5 削除する **Oc4jInstance** コンポーネントを選択します。

注-ホームインスタンスを削除することはできません。

Oracle Application Server クラスタの管理

この節では、クラスタ管理の機能について説明します。ファイルベースクラスタは、Oracle App Server インスタンスのファイルベースリポジトリをクラスタリポジトリとして割り当てることによって作成されます。Oracle App Server インスタンスがクラスタに参加すると、そのインスタンスは自分独自のリポジトリの使用を停止し、クラスタリポジトリの使用を開始します。結果として、前のインスタンスはすぐに、クラスタリポジトリに記述されている構成を採用します。

クラスタは1つまたは複数の J2EEInstaller コンポーネントからなります。1つのクラスタ内では、1つの J2EEInstaller コンポーネントがクラスタマスターであり、それ以外の J2EEInstaller コンポーネントはクラスタのメンバーです。クラスタマスターであるインスタンスには、その仮想ホストに ClusterMaster と呼ばれるコンポーネントがインストールされます。同じように、クラスタのメンバーである J2EEInstaller コンポーネントには、ClusterMember コンポーネントがインストールされます。

▼ クラスタを作成する

この作業の終了時には、次の変更が行われています。

- ターゲットのインスタンスがクラスタです。
- 1つの ClusterMaster コンポーネントが選択した仮想ホストにインストールされます。

始める前に クラスタを作成する場合には、J2EEInstaller コンポーネントがあらかじめインストールされていなければなりません。詳細は、[27 ページの「J2EE and Web Cache トポロジを配備する」](#)を参照してください。

- 1 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Cluster Management**」セクションで「**Create**」をクリックします。
- 3 「**Plans Details**」ページで「**Run**」をクリックします。
- 4 ターゲットにする仮想ホストを選択します。
ホストは ClusterHostSet のメンバーでなければなりません。さらに、ホストには、ClusterMaster コンポーネントか ClusterMember コンポーネントが含まれていなければなりません。複数の仮想ホストを選択できます。

- 5 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。チェックが入っていると、プランはこのホストセットに加えて、前の手順で選択したホストにインストールしようとしています。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

▼ J2EEInstaller コンポーネントを既存のクラスタに追加する

この作業の終了時には、次の変更が行われています。

- ターゲットインスタンスはクラスタのメンバーです。
- 1つの ClusterMember コンポーネントが選択した仮想ホストにインストールされます。
- この時点で、このインスタンスとはクラスタに属しているため、Oc4jHolder コンポーネントとそのすべての Oc4jInstance コンポーネントは削除されます。
- OC4J インスタンスおよび任意のクラスタメンバーのアプリケーションは、ClusterMaster コンポーネントを保持するアプリケーションサーバーインスタンスに属する Oc4jHolder コンポーネントにインストールされているコンポーネントによって表されます。

始める前に J2EEInstaller コンポーネントをクラスタに割り当てる場合は、そのクラスタがすでに存在していなければなりません。42 ページの「[クラスタを作成する](#)」を参照してください。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで「Oracle App Server 10g」を選択します。
- 2 「Oracle App Server 10g Common Tasks」ページの「Cluster Management」セクションで「Join」をクリックします。
- 3 「Plans Details」ページで「Run」をクリックします。
- 4 「Plans Details Run」ページで、ターゲットにする仮想ホストを選択します。
ホストは ClusterHostSet のメンバーでなければなりません。さらに、ホストには、ClusterMaster コンポーネントか ClusterMember コンポーネントが含まれていなければなりません。複数の仮想ホストを選択できます。

- 5 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。
チェックが入っていると、プランはこのホストセットに加えて、前の手順で選択したホストにインストールしようとしています。
- 6 参加するクラスタの ClusterMaster を含む J2EEInstaller コンポーネントの ORACLE_HOME_NAME に対する値を入力します。
- 7 ClusterMaster コンポーネントがインストールされている物理ホストの名前を入力します。
- 8 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

▼ J2EEInstaller コンポーネントをクラスタから削除する

Oracle App Server インスタンスをクラスタから削除するとき、そのクラスタリポジトリはそのインスタンスのファイルベースリポジトリにコピーされます。この時点から、そのインスタンスは独自のリポジトリを使用ようになります。また、このインスタンスに発行された OC4J インスタンスまたはアプリケーションを変更するためのコマンドは、このインスタンスだけに影響するようになります。

この作業の終了時には、次の変更が行われています。

- ターゲットインスタンスはクラスタのメンバーではありません。
- 選択した仮想ホストから、1つの ClusterMember コンポーネントがアンインストールされます。
- クラスタを削除されたインスタンスには、1つの Oc4jHolder インスタンスがインストールされます。
- Oc4jHolder コンポーネントによって、1つの Oc4jHolderHT 仮想ホストが作成されます。
- Oc4jHolderHT 仮想ホストには、1つの Oc4jInstance (ホーム) がインストールされます。

注-クラスタから削除されるアプリケーションサーバーインスタンスは、クラスタに配備されていたすべての OC4J インスタンスおよびアプリケーションのコピーを継承します。N1 SPS 制限はこの変更をさせないため、このインスタンスは Oracle アプリケーションと同期がとれなくなります。ホーム OC4JInstance は作成されますが、クラスタのほかの OC4J インスタンスや、それらのインスタンスが持つアプリケーションはなくなります。このコンポーネントと Oracle の同期をとり直すには、プランを実行するときに、markOnly インストールを使用するか、full Install パラメータを false に設定する必要があります。

始める前に J2EEInstaller コンポーネントをクラスタから削除する場合は、そのコンポーネントがクラスタのメンバーである必要があります。43 ページの「[J2EEInstaller コンポーネントを既存のクラスタに追加する](#)」を参照してください。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Cluster Management**」セクションで「**Leave**」をクリックします。
- 3 「**Plans Details**」ページで「**Run**」をクリックします。
- 4 「**Plans Details Run**」ページで、クラスタから削除する仮想ホストを選択します。
ホストは ClusterHostSet のメンバーでなければなりません。さらに、ホストには、ClusterMaster コンポーネントか ClusterMember コンポーネントが含まれていなければなりません。複数の仮想ホストを選択できます。
- 5 ターゲットホストセットが選択されていないか確認します。
ターゲットホストセットの前のチェックボックスにはチェックを入れしないでください。チェックが入っていると、プランはこのホストセットに加えて、前の手順で選択したホストからコンポーネントを削除しようとします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ クラスタマスターを表示する

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Cluster Management**」セクションで「**View Masters**」をクリックします。
インストールされている ClusterMaster コンポーネントのリストが表示されます。各コンポーネントは別々のクラスタに対応しています。

▼ クラスタメンバーを表示する

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。

- 2 「Oracle App Server 10g Common Tasks」 ページの「Cluster Management」 セクションで「View Members」 をクリックします。

インストールされている ClusterMember コンポーネントのリストが表示されます。各コンポーネントは、クラスタのメンバーである J2EEInstaller コンポーネントに対応しています。

▼ クラスタを削除する

クラスタを削除する場合は、まず、そのクラスタのすべてのメンバーを削除する必要があります。それには、前の節で説明した手順を参照してください。クラスタのメンバーがなくなったら、次の手順でクラスタを削除します。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Application Deployment」 セクションで「Components」 をクリックします。
- 2 必要な場合は「Change Folder」 を選択し、/com/sun/oracle10g_AS に移動します。
- 3 「ClusterMaster」 をクリックします。
- 4 コンポーネントプロシージャに従ってデフォルトのアンインストールを実行します。
- 5 削除する ClusterMaster コンポーネントを選択します。

エンタープライズアプリケーションの使用法

「Oracle App Server 10g Common Tasks」 ページでは、Oracle エンタープライズアプリケーションの取得と配備を行うことができます。

▼ Enterprise Application (EAR) ファイルを取得する

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで「Oracle App Server 10g」 を選択します。
- 2 「Oracle App Server 10g Common Tasks」 ページの「Enterprise Applications (EARs)」 セクションで「Create New」 をクリックします。
- 3 取得したコンポーネントの名前を入力します。

注- 取得したファイルを格納する場所へのパスを指定することができます。プラグインのデフォルトフォルダ (/com/sun/Oracle AS 10g) は読み取り専用のディレクトリです。

- 4 (省略可能) コンポーネントのラベルを入力します。
- 5 (省略可能) コンポーネントの記述を入力します。
- 6 このエンタープライズアプリケーションがある **Oracle** 管理サーバーを選択します。
- 7 ファイルシステムをブラウズして、取得するエンタープライズアプリケーションを見つけます。

ヒント- 必ず EAR ファイルの一番上を選択してください。それにより、エンタープライズアプリケーションに属するすべてのファイルが包含されます。たとえば、Oracle がアプリケーション設定を維持する XML ファイルなどです。

- 8 「**Check-in Selected Item**」をクリックします。
- 9 チェックインページの情報を確認してから「**Continue to Check-in**」をクリックします。

▼ エンタープライズアプリケーションを配備する

- 1 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g Common Tasks**」ページの「**Enterprise Applications (EARs)**」セクションで「**View All**」をクリックします。
- 3 必要な場合は「**Change Folder**」を選択してから、取得したファイルが格納されているディレクトリへ移動します。
- 4 配備するコンポーネントの名前をクリックします。

Web アプリケーションの使用法

「Oracle App Server 10g Common Tasks」ページでは、Oracle Web アプリケーションの取得と配備を行うことができます。

▼ Web Application (WAR) ファイルを取得する

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで「Oracle App Server 10g」を選択します。
- 2 「Oracle App Server 10g Common Tasks」ページの「Web Applications (WARs)」セクションで「Create New」をクリックします。
- 3 取得したコンポーネントの名前を入力します。

注-取得したファイルを格納する場所へのパスを指定することができます。プラグインのデフォルトフォルダ (/com/sun/Oracle AS 10g) は読み取り専用のディレクトリです。

- 4 (省略可能)コンポーネントのラベルを入力します。
- 5 (省略可能)コンポーネントの記述を入力します。
- 6 この Web アプリケーションがある Oracle 管理サーバーを選択します。
- 7 ファイルシステムをブラウズして、取得する Web アプリケーションを見つけます。

ヒント-必ず WAR ファイルの一番上を選択してください。それにより、Web アプリケーションに属するすべてのファイルが包含されます。たとえば、Oracle がアプリケーション設定を維持する XML ファイルなどです。

- 8 「Check-in Selected Item」をクリックします。
- 9 チェックインページの情報を確認してから「Continue to Check-in」をクリックします。

データソースの作成と編集

▼ データソースを取得する

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで「Oracle App Server 10g」を選択します。
- 2 「Oracle App Server 10g Common Tasks」ページの「Data Source」セクションで「Create New」をクリックします。

- 3 取得したコンポーネントの名前を入力します。

注-取得したファイルを格納する場所へのパスを指定することができます。プラグインのデフォルトフォルダ (/com/sun/Oracle AS 10g) は読み取り専用のディレクトリです。

- 4 (省略可能)コンポーネントのラベルを入力します。
- 5 (省略可能)コンポーネントの記述を入力します。
- 6 このデータソースがある **Oracle** 管理サーバーを選択します。
- 7 ファイルシステムをブラウズして、取得するデータソースを見つけます。

ヒント-必ず WAR ファイルの一番上を選択してください。これにより、データソースのうちのすべてのファイルが取得されます。

- 8 「**Check-in Selected Item**」をクリックします。
- 9 チェックインページの情報を確認してから「**Continue to Check-in**」をクリックします。

▼ データソースを変更する

- 1 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで「**Oracle App Server 10g**」を選択します。
- 2 「**Oracle App Server 10g common tasks**」ページの「**Data Source**」セクションで「**View**」をクリックします。

コンポーネントタイプ

Oracle App Server 10g プラグインには、いくつかのコンポーネントタイプがあります。これらのコンポーネントを使用すれば、一般的な Oracle Application Server コンポーネントの多くを簡単にモデル化したり、インストール、アンインストール、エクスポート、スナップショットといった動作を特定のリソースと自動的に関連付けることができます。コンポーネントタイプの多くは、サーバーやクラスタの作成や管理を行うときにこのソフトウェアによって使用されます。これらのコンポーネントを直接処理することはほとんどありません。

- エンタープライズアプリケーション (EAR)
- Web アプリケーション (WAR)
- ClusterMaster

- ClusterMember
- IDInstaller
- J2EEInstaller
- J2EESSOInstaller
- J2EESONWCInstaller
- MRInstaller
- PWInstaller
- Oc4jHolder
- Oc4jInstance

索引

E

EAR, 取得, 46-47

J

JAR ファイル, 19

Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照

R

rhosts, 24

W

WAR, 取得, 48

Web アプリケーション, 取得, 48

Web アプリケーションの取得, 48

え

エージェント, 24

エンタープライズアプリケーション, 取得, 46-47

エンタープライズアプリケーションの取得, 46-47

く

クラスタ, 用のリモートシェル, 24

た

タイムアウト, 24

て

データソース, 取得, 48-49

データソースの取得, 48-49

は

配備サーバーの要件, 14

ふ

プラグイン

インポート, 21-22

構成, 22-24

内容, 13-14

配備サーバーの要件, 14

プラグインのインポート, 21-22

プラグインの構成, 22-24

プラグインファイル

インポート, 21-22

場所, 19

り

リモートエージェント, 24

リモートシェル, 24

